

歩いて知るきのくに歴史探訪 藤白神社から琴ノ浦温山荘園までを巡る

古地図で歩く海南市中心部周辺の文化財マップ

1 琴ノ浦温山荘園 南東
2 藤白神社 下段五、藤白神社、十二宗親訪立堂

【藤白神社】の所在地は、熊野古道が通る、王子峠をはじめ、多くの文化財が存在しています。古地図で歩く海南市中心部周辺の文化財マップでは、藤白神社周辺を中心に、海南市中心部周辺の文化財や史跡を紹介し、古地図を軸に、藤白神社周辺から琴ノ浦温山荘園までを歩いてみます。

海南市中心部周辺の文化財位置図

遺跡名	名称	区分
1 衣木屋敷跡	A 藤白神社本堂	文化財(建造物)
2 持木屋敷跡	B 赤松野野三所権願本地仏坐像	文化財(美術工芸品)
3 三上屋敷跡	C 赤松一画軒書立像	文化財(美術工芸品)
4 熊野遺跡	D 藤白王子跡	史跡
5 相田屋敷跡	E 藤ノ浦温山(主堂 赤松家 坐室)	歴史文化財(建造物)
6 名原遺跡	F 琴ノ浦温山荘園	史跡
7 名所前跡	G 藤ノ浦温山荘園	史跡
8 今の谷遺跡		国定文化財
9 磯の谷遺跡		国定文化財
10 池尻山遺跡		国定文化財

遺跡名	名称	区分
I	熊野古遺(古代-近世)	史跡
II	熊野古遺(古代-中世)	史跡
III	熊野古遺(近世)	史跡

【島居遺跡】

JR紀勢本線の鉄道敷設工事に伴い多量の縄文土器や石器をはじめ、縄の部分が残存するものとして限内唯一の土器が発見されると、縄文時代後期後章(約3000年前)の遺跡として知られています。遺跡は尾根部に位置し、標高約1～6m。周辺は宅地化が進んでいますが、かつては石垣などで土壌がみかかっていたと考えられます。海南市内には内務省「津ノ口遺跡・島居遺跡」・且東遺跡といった縄文時代の遺跡があります。

平成9年度(1998)には紀勢本線の高架建設工事に伴い、1200㎡の範囲を敷地管理法人島居島居文化財センターが発掘調査を行っています。この調査では、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物を検出しました。

島居遺跡発掘調査(全景、南が右)

琴ノ浦温山荘園

かつては三方を海に囲って瀬江湾の風光を一望し、その麓に別荘(矢ノ島)が屹立し、盛岡には145万石を擁した大陣屋は大江に接する大日本陣屋です。本園の北には朝尾山の山麓が残り、その麓には近頃の邸宅や茶室など閑居の邸宅が並んでいます。

園道は号数が増え賑わったが、園をめぐるとは正徳10年代に輸入運搬船が乗り入れられるなど賑わいの山麓が望まれ、琴ノ島の風景が望めます。

本園は、大坂で成金になった豪族島居の屋敷跡に明治初年に開園して、この遺跡を復元し、園内をめぐるとは正徳10年代に輸入運搬船が乗り入れられるなど賑わいの山麓が望まれ、琴ノ島の風景が望めます。

長次郎氏死去後、昭和17年(1942)に一帯に公園され、その風致は現在に親しまれています。

主園

温山荘園の建造物と庭園、そして近代の素材

温山荘園は園内に築かれた矢ノ島を構成の中心とし、その南端の石垣上に築年数が不明とされている。築年の推定には、矢ノ島に歩道のように海地を掘られ、広大な土壌層を、そして土層を伴って築造されたが、その土層を伴った築造された。築年不明とされている。築年不明とされている。築年不明とされている。

温山荘園は園内に築かれた矢ノ島を構成の中心とし、その南端の石垣上に築年数が不明とされている。築年の推定には、矢ノ島に歩道のように海地を掘られ、広大な土壌層を、そして土層を伴って築造されたが、その土層を伴った築造された。築年不明とされている。築年不明とされている。築年不明とされている。

温山荘園(御座り)

歩いて知るきのくに歴史探訪 ～藤白神社から琴ノ浦温山荘園までを巡る～
古地図で歩く海南市中心部周辺の文化財マップ
平成26年(2014)10月25日発行
発行:公益財団法人和歌山県文化財センター 〒640-0201 和歌山市南橋1263-1(4)

